

高層建築物の周辺気流に関する研究集会

高層建物や超高層建物の周辺で、局所的に風速が強くなることが知られており、1970年代には浜松町世界貿易センタービルや新宿副都心の超高層ビル群の周辺で、ビル風の問題がクローズアップされました。その後、多くの研究がなされ、風環境評価指標などが整備されてきました。近年、市街地再開発や高層集合住宅群の建設などで、風環境の問題が再びクローズアップされており、ビル風のため横断歩道が渡れない、自転車が転倒するなどの事故例も報告されております。港区では、2013年7月1日に港区ビル風対策要綱が施行され、良好な風環境維持のための規制強化が図られました。また、従来の、年間を通しての平均的な風環境評価や、快・不快を基準とする評価指標では、事故に繋がるような強風問題を適切に評価できないなどの問題点もあり、別の評価指標の検討も望まれています。

東京工芸大学・風工学共同研究拠点の今年度の研究テーマに「種々の断面形状を有する超々高層建築物の周辺気流に関する研究」（研究代表者：Prof. Qingshan Yang, 北京交通大学）が採択され、建物形状変化によってどのように、周辺気流状況が改善されるかという観点から研究が行われています。

本研究集会では、高層建築物の周辺気流と風環境評価に関して、最新の研究の現状や問題点を把握し、今後取り組むべき課題を議論いたします。奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げる次第です。

と き： 2014 年 2 月 3 日 9:30～12:30

ところ： 東京工芸大学中野キャンパス・芸術情報館 1 階ホール（東京都中野区本町 2-9-5）
東京メトロ丸ノ内線／都営地下鉄大江戸線・中野坂上駅，1 番出口から徒歩 7 分

問合先： 東京工芸大学・風工学研究拠点・建築構造 II 研究室 046-242-9547

江藤美鶴 etoh@arch.t-kougei.ac.jp

＜同日午後の 13:30～17:00 には、関連して「様々な形状の超々高層建築物の耐風設計に関する研究集会」を開催致します。こちらへのご参加も、是非お願い致します。＞



高層建築物の周辺気流に関する研究集会

プログラム

09:30 - 09:40	開会挨拶，趣旨説明 田村幸雄（東京工芸大学）
09:40 - 10:05	ビル風問題の実状（施主の思い，設計者の立場，コンサルの対応，行政の判断，住民の気持） 中村修（(株)風工学研究所）
10:05 - 10:30	身近なビル風問題と課題 藤井邦雄（(株)風環境リサーチ）
10:30 - 10:55	風環境評価におけるガストファクターの扱い 西村宏昭（(一財)日本総合建築試験所）
10 分休憩	
11:05 - 11:30	領域気象モデルによる風環境評価のための標準上空風データの整備 義江龍一郎（東京工芸大学）
11:30 - 11:55	CFD による建物周辺の風環境予測：現状と課題 富永禎秀（新潟工科大学）
11:55 - 12:20	超高層建築物の周辺風環境への影響評価 今野尚子（(株)竹中工務店）
12:20 - 12:30	閉会挨拶 Qingshan Yang（北京交通大学）